

2022年11月27日

アドベント第一週礼拝説教要約

## ダビデの子孫から

(イザヤ11:1-10)

### 一、預言が与えられた背景

1章1節に、イザヤが預言者として活動した時期の解説が記されています。〈アモツの子イザヤの幻。これは彼がユダとエルサレムについて、ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に見たものである。〉と。ですが、ウジヤ王の時代はイザヤが預言者として活動する前でした。6章1節に〈ウジヤ王が死んだ年に、私は、高く上げられた御座に着いておられる主を見た。〉と、イザヤが預言者として立ち上がった時のことが記されているからです。そういうわけで、ヨタム王、アハズ王、ヒゼキヤ王の時代がどんな時代であったかを知る時に、イザヤが活動した時代の背景が見えてまいります。それは、主から与えられた預言のことばを語っても、何の効果もない時代でした。ですが、これこそが、イザヤが高貴な預言のことばを語る背景になったことを忘れてはいけません。語っても語っても何の効果もないという状況です。

私たちに当てはめるなら、私共が神のことば(キリストの福音)を聞くのは、物事がうまく進んでいるように見える時ではなく、すべての道が閉ざさ

れたと思う時であると言えます。

### 二、テキストが語ること

そういう、イザヤが置かれていた背景を知りつつ、きょう与えられたテキストを見てまいります。11章1節です。〈エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。〉とあります。エッサイは、イスラエル全土の王となったダビデの父親でした。ダビデは、父エッサイの七人の息子の、末息子でした。ダビデは神の選ひの器であり、神の霊が注がれるにふさわしい器でした。完璧な人間であったという意味ではありません。神の前に大路のある正直な器でした。ノアのように、アブラハムのように、神の前に着飾らない、且つ神を愛する正直な器でした。

南国ユダの歴代の王たちは、いずれもダビデ王の子孫たちでした。しかしイザヤの時代、国家はますます悪い方向に向かって行きました。そういう状況下で、幻のような預言のことばを得ました。〈エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。〉と。その意味は、第二のダビデが誕生するということです。ダビデ王朝が回復して、歴代の王の延長線上に第一のダビデが誕生する、という意味ではありません。ダビデ王朝は一旦消滅して、第二のダビデが興されるという意味です。10章33節、34節が、11章1節につ

ながっているを受け取りますと、意味が見えてまいります。こうあります。

〈見よ、万軍の主、主が恐ろしい勢いで枝を切り払われる。丈の高いものは切り倒され、そびえたものは低くなる。主は林の茂みを鉄の斧で切り倒し、レバノン は力強い方によって倒される。〉と。ここで何が語られているのかと申しますと、主御自身がダビデ王朝を切り倒されるという預言かと思われます。現に、イザヤが預言した百五十年後に、南国ユダはバビロンに滅ぼされてしまいました。

ここに、主なる神のやり方を見ることができます。神は、不信仰な現状を一旦打ち壊して、そこから新しいものを始められます。そういうわけで、イザヤが預言した第一のダビデは、かつての南国のダビデ王朝と直接につながっていないものの、〈エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。〉のです。

さらに、エッサイの根株から生え出た新芽である第二のダビデは、人間離れたダビデであることが預言されています。それが、2節以降の預言です。まず、2節を見てまいります。〈その上に主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる、知識の霊である。〉とあります。このようにな方を王としていただくことができるなら、イスラエルは諸手を挙げて喜ぶ

ことでありましょう。

さらに3節、4節を見てまいります。〈この方は主を恐れることを喜びとし、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。〉とあります。まさしく理想的な王であり、理想的な指導者です。そのような王を、そのような指導者を、いただくことができるのでしょうか。人間に期待するのは無理な話です。こうして、イザヤが預言した第一のダビデは、人間離れた、神のような王、神のような指導者でなければ無理であるという話になってまいります。

### 三、イエスにおいて実現した

私たちは、新約聖書の証言により、イザヤの預言がイエス・キリストにおいて実現したことを知ります(↓ルカ4:16-21、ヨハネ5:24を参照)。

教会は、主イエス・キリストが神の遣わされた唯一の救い主であり、神御自身であると信じています。

第二のダビデが遣わされる預言は、キリストの誕生する七百年前のたいへんな時代、希望が持てない時代の中で、預言者イザヤが神の霊の迫りを受け、与えられたことばでした。